



苫小牧市

令和8年度 教育行政執行方針

未来の社会をつくるひとづくり

令和8年度 (2026)
苫小牧市教育委員会

令和8年度（2026年度）教育行政執行方針

目次

はじめに	-----	3
------	-------	---

■ 方針1 社会で生きる学びの推進

1 確かな学力の育成	-----	4
2 これからの時代に求められる資質・能力の育成	-----	4
3 多様な価値を尊重する豊かな心の育成	-----	5
4 体力向上・健康教育の充実	-----	5
5 特別支援教育の充実	-----	6

■ 方針2 学校・家庭・地域の思いをつむぐ体制の確立

6 学校段階間の連携・接続の推進	-----	7
7 不登校児童生徒への支援の充実	-----	7
8 学校と地域の連携・協働の推進	-----	8
9 学びのセーフティネットの構築	-----	8
10 教育環境・学校施設・設備の充実	-----	9

■ 方針3 すべての人が学び続け活躍できる社会の実現

11 主体的に生涯学習を続け、郷土の発展を支えるひとづくり	--	10
12 いつでも、誰とでも学べる環境づくり	-----	10
13 文化・芸術がいつも身近にあるまちづくり	-----	11

むすび	-----	13
-----	-------	----

はじめに

持続可能な社会や多文化共生社会の実現など、未来へのまちづくりを進めるなかで、本市の教育を取り巻く環境にも変化があります。

本年2月、子どもたちに望ましい学習環境を提供するため「苫小牧市立学校再編ビジョン」の素案をお示ししました。学校教育の役割の大きさを改めて認識し、学校の未来を保護者、地域とともに考えていく必要があります。

また、教員給与特別措置法（給特法）の改正により、50年ぶりの給与大幅改善など処遇改善が図られます。教員が“働きやすさ”と“働きがい”を感じながら、笑顔で子どもと接する環境を維持するために、市民、地域の協力が必要となります。

生涯学習分野では、待望の市民文化ホール「ART CUBES（アートキューブズ）」が開館します。文化芸術活動は市民が育むものであり、一人ひとりが自分を表現する喜びや創造する楽しさを実感できるよう、それぞれの活動をより一層充実させる機会として強く後押ししたいと考えております。

目に見えない小さな積み重ねが未来へと繋がる人づくりであり、その土台は市民全体で作るものと考えています。子どもたち、市民、それぞれが主役となるステージの幕開けとして、新たな思いで教育行政を推進してまいります。

方針1 社会で生きる学びの推進

1 確かな学力の育成

子どもたちが様々な問題に対し、自ら働きかけ、よりよく解決できるよう、すべての教科において、探究的な学びの質を高めてまいります。

また、子どもたち自身の学びの必要感や興味関心に基づいて、自分に合った方法で学びを広げる学習習慣が定着するよう、「新・学びの3か条」を策定いたします。

2 これからの時代に求められる資質・能力の育成

子どもたちが自らの視野や考えを広げるために、意図をもって多様な他者と対話や交流ができる力を身に付けられるよう、ICTを活用したコミュニケーションの機会を充実させてまいります。

また、子どもたちが確かな英語力を向上できるよう、ALTを有効に活用した授業の実施と、イングリッシュ・カフェなど、学んだ英語を実践的に活用する機会の創出を両輪として取り組んでまいります。

3 多様な価値を尊重する豊かな心の育成

子どもたちが最適な判断力や実践意欲を高めることができるよう、“心に問いかけ、心で考える”道徳教育の充実を図ってまいります。

また、誰もが安心して生活できる社会の担い手としての心構えや行動力を高めることができるよう、いじめを自分事としてとらえ、他者に対する受容と尊重の心を育む人権教育を進めてまいります。

4 体力向上・健康教育の充実

子どもたちが運動習慣を形成できるよう、自分たちで話し合い、試行錯誤するなかで、技能の上達や仲間と運動することの面白さを実感できる体育授業を創意工夫してまいります。

また、スマートフォン等の利用をめぐる様々なトラブルが発生しておりますが、加害者や被害者にならないための規範意識や適切な判断力、行動力を身に付けられるよう、情報モラル教育の充実に努めてまいります。

さらに、望ましい食習慣を形成できるよう、各学校の食に関する指導計画に基づき、地場産物の活用など地域と密着した取組を推進するほか、残食を減らすなど、SDGsの推進に取り組んでまいります。

5 特別支援教育の充実

すべての子どもが障がいに対する理解を深めることができるよう、共に学び、一人ひとりの個性や特性を響かせ可能性を伸ばし合うなかで、共生する力を育む特別支援教育を推進してまいります。

また、医療的ケアが必要な児童生徒が安心して学べるよう、医療的ケア実施要綱に基づき学校・家庭・医療機関との連携による学びの環境と支援体制の整備に努めてまいります。

方針2 学校・家庭・地域の思いをつむぐ体制の確立

6 学校段階間の連携・接続の推進

園児や児童生徒が、培った力を発揮して、学びに対する高揚感や夢実現への学びの必要感をもって次の段階に進むことができるよう、幼小、中高の一層の連携強化を図ってまいります。

また、児童生徒が自身の弱点を克服し、自信と意欲を高め新たな学びへ向かうことができるよう、確かな児童生徒理解のもと、系統的かつ一貫性のある指導の改善・充実に努めてまいります。

7 不登校児童生徒への支援の充実

新たに医療機関との連携を図るため、教育支援センターあおば学級を移転するほか、校内教育支援センターに配置する不登校対策支援員の増員や運営事例集の展開など、体制の強化と効果的な活用を促進してまいります。

また、不登校児童生徒のニーズに応じた学びの場の選択肢を拡充するため、新たな試みとして、勇払中学校を東部地区不登校対策連携校と位置づけ、小規模校での学びを選択できるようにいたします。さらに、SSW、関係機関との

緊密な連携により、的確な実態把握のもと、児童生徒の自立心の醸成と個々の行動実践につなぐ計画的支援の充実を図ってまいります。

8 学校と地域の連携・協働の推進

子どもたちが未来の社会のつくり手として、必要な素養と自らの夢の基盤となる資質・能力を育むことができるよう、地元企業や各学校運営協議会との協働により、ふるさと苦小牧を丸ごと教材とした、実社会で生きる学びの創造と充実に努めてまいります。

また、総合的な学習の時間では、社会で生きる力を身に付けることができるよう、中学校1校をモデル校として、地元企業と連携した課題解決型の教育プログラムを実践・検証してまいります。

さらに、子どもたちがスポーツ・文化活動に親しめる環境と持続可能な活動機会の確保に向けて、「とまこまい型部活動地域移行ビジョン」に基づき、学校施設の安全対策や地域クラブへの支援など、引き続き部活動の地域展開を推進してまいります。

9 学びのセーフティネットの構築

学校給食の質の向上のため、適正な給食費を設定するとともに、国が実施する「学校給食費の抜本的な負担軽減」等を活用し、保護者負担の大幅な軽減を図ってまいります。

また、教材費等の学校活動費縮減や提出物の見直しを各学校で継続するとともに、市教委が好事例を共有するなど保護者負担軽減に向けた取組を推進してまいります。

10 教育環境・学校施設・設備の充実

クラス替えが可能な学校規模のもと、子どもたちが多様な人間関係のなかで成長する環境を整備するため、保護者、地域に丁寧に説明しながら「苫小牧市立学校再編ビジョン」を策定してまいります。

また、子どもたちが安全安心な環境で学べるよう、大成小学校改築工事に着手するほか、泉野小学校暖房給湯設備改修などの老朽化対策事業や、勇払地区の義務教育学校整備事業などを進めてまいります。

さらに、教員一人ひとりが“働きやすさ”と“働きがい”の両方を感じられる職場となるよう、「働き方改革加速化計画」に基づき、業務量の軽減などの取組を推進してまいります。

方針3 すべての人が学び続け活躍できる社会の実現

11 主体的に生涯学習を続け、郷土の発展を支えるひとづくり

すべての市民がライフステージに合わせて、主体的かつ継続的に学ぶ機会を充実させるため、セカンドブック事業やナナカマド教室などの取組を継続します。

また、地域課題の解決や共生社会の実現に向けた市民の学習ニーズに対応するため、関係機関等と連携し出前講座の充実に努めます。

12 いつでも、誰とでも学べる環境づくり

多くの市民が生涯学習に参加し、学びの循環を構築するため、とまこまいアーティスト・バンクや生涯学習人材バンクの情報を提供し、積極的な活用を推進してまいります。

また、市民の学習意欲を創出するきっかけとなる、生涯学習だよりやサークルガイドなどの情報を広く提供するとともに、長寿社会のニーズに応じた学びと成果が地域に共有されるよう、長生大学などの活動の充実に努めてまいります。

13 文化・芸術がいつも身近にあるまちづくり

文化・芸術活動の継続性を確保するため、新たな「文化芸術振興推進計画」に基づき、文化芸術活動支援補助事業や、学校文化大会開催運営補助事業を実施し、市民、団体、子どもたちの活動を支援してまいります。

また、広く市民が文化芸術に親しめる機会を拡充するため、水谷龍二氏の演劇公演や小・中学生を対象にした樽前アートスクールなどの体験事業を開催し、芸術文化で豊かな心をつなぐまちづくりの推進に努めます。

科学センターにおいては、宇宙ステーション“ミール”をはじめとした科学展示などにより、科学に対する興味関心を育ててまいります。

また、市民・学校・関係団体と連携し、プラネタリウムやミール展示館でのイベントを開催するなど施設の有効活用を促進し、生涯にわたり科学を学ぶことができる施設としての充実に努めてまいります。

さらに、今後のリニューアルに向けて、駅前再整備の検討のなかで、関係部署との協議を継続して行ってまいります。

美術博物館においては、棟方志功の版画における北国の特性に焦点を当て、普遍的な美の本質に迫る特別展“棟方志功の美の神髄”を開催いたします。

また、文化的な素養や郷土への愛着と誇りを高め、豊かな感性を育む機会を充実させるため、写真家石川直樹が手掛ける“火山”をテーマにした写真作品のほか、縄文時代の謎の遺物を介した不思議な世界の紹介や本市の娯楽から文化の発展の歴史を紹介する企画展などを開催いたします。

中央図書館においては、地域の情報拠点として市民に喜ばれ、あらゆる世代の方が自主的に読書活動を行うことができるよう、読書環境の整備に努めてまいります。

また、「子どもの読書活動推進計画」に基づき、親子が気軽に利用できるよう、こそだて time や赤ちゃんと楽しむ絵本ひろば事業を実施するとともに、昨年 11 月から市内すべての小中学生が利用できるようになった電子図書館について、学校との連携をさらに強化してまいります。

むすび

未来を担うすべての子どもたちが、よりよく生き抜く力を身に付けるために、子どもの主体性や意見を尊重し、子どもの視点から考える「子どもが主語」の教育を進めています。

日々、様々なステージで、自らの力を試し、発揮し、友との協力により、自らの命をめいっぱい輝かせながら、確かな成長を魅せる子どもたち

その姿を、子どもたちに関わるすべての大人が、あたたかく見守り、支え、時に鼓舞し、称賛の声をかけることで、一人ひとりの確かな成長をうながしていく

一つの舞台をみんなで創り上げるように、ステージの主役である子どもを真ん中に、すべての市民で「未来の社会をつくるひとづくり」を体現する教育を紡いでいく…その使命を果たしてまいります

令和8年2月

苫小牧市教育委員会 教育長 山本俊介